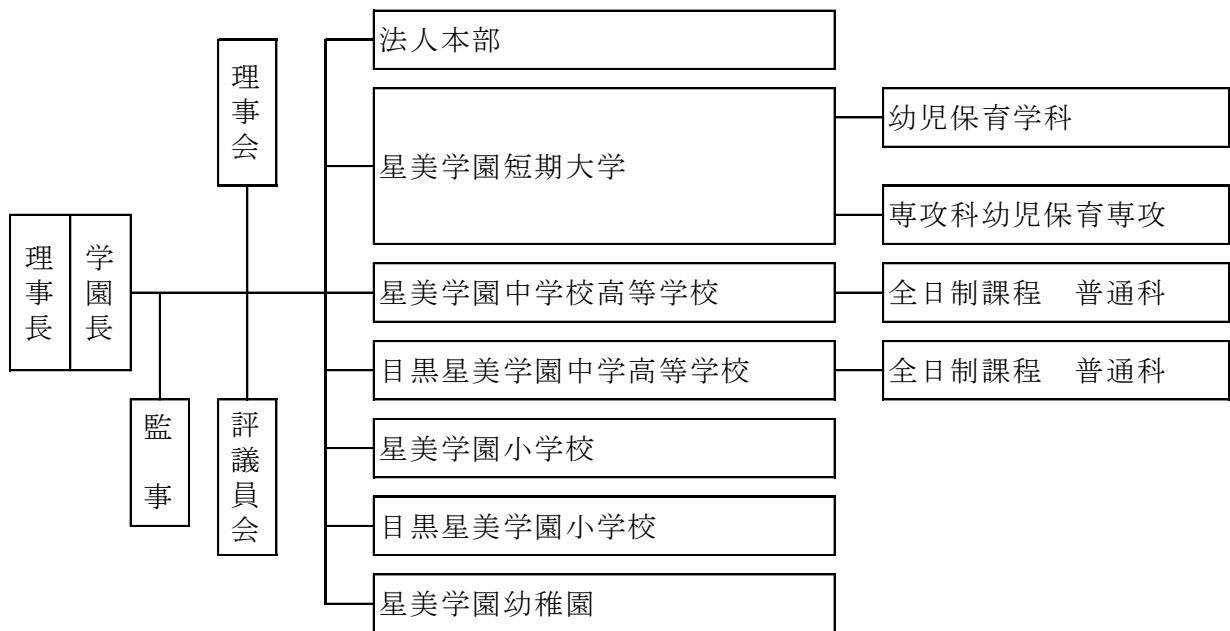


# 平成30年度事業報告

## I 法人の概要

学校法人星美学園は、我が国の教育基本法及び学校教育法に従って、扶助者聖母会の創立者聖ヨハネ・ボスコの教育理念である「予防教育法による全人間教育」、すなわち、理性・宗教・慈愛に基づき、家族的教育環境の中で、「誠実な人間、良い社会人を育てる」ことを目的にカトリック・ミッション・スクールとして教育事業に取り組んでおります。

### 1 組織



## 2 所在地

校名	所在地
法人本部	〒115-8524 東京都北区赤羽台四丁目2-14
星美学園短期大学	
星美学園中学校高等学校	
星美学園小学校	
星美学園幼稚園	
目黒星美学園中学高等学校	〒157-0074 東京都世田谷区大蔵二丁目8-1
目黒星美学園小学校	〒152-0003 東京都目黒区碑文谷二丁目17-6

## 3 沿革

1929年12月	イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティ他5名の宣教女来日
1940年12月	東京三河島「星美学園」創設
1947年01月	星美学園小学校設置認可
1947年04月	星美学園中学校設置認可
1948年03月	星美学園高等学校設置認可
1951年03月	学校法人星美学園設立
1953年01月	星美学園幼稚園設置認可
1954年03月	学校法人星美学園，星美学園第二小学校設置認可
1955年03月	星美学園第二小学校校舎落成（西側半分落成）
1956年10月	「学校法人目黒星美学園」として寄付行為認可 「星美学園第二小学校」を「目黒星美学園小学校」に改称
1959年11月	目黒星美学園中学校設置認可
1960年01月	星美学園短期大学家政科設置認可
1962年09月	目黒星美学園高等学校設置認可
1963年04月	短期大学保育科新設
1967年04月	短期大学国文科新設
1969年05月	短期大学各科の名称を改称（家政学科，幼児教育学科，国文学科）
1971年07月	目黒星美学園中学高等学校体育館完成
1972年02月	目黒星美学園小学校体育館完成

1980年05月	星美学園中学校高等学校特別教室棟・体育館落成
1985年07月	星美学園プール・南グラウンド竣工
1991年05月	目黒星美学園中学高等学校講堂落成
1993年04月	短期大学家政科を生活文化学科と改称
1999年12月	短期大学国文学科・生活文化学科を改組し，人間文化学科とする設置認可
2000年06月	目黒星美学園小学校新校舎落成
2003年04月	短期大学専攻科幼児教育専攻設置
2004年05月	短期大学日伊総合研究所設立
2005年04月	短期大学幼児教育学科を幼児保育学科に改称 専攻科を専攻科幼児保育専攻に改称
2007年04月	目黒星美学園中学高等学校6年一貫教育体制導入
2009年04月	短期大学人間文化学科専攻科イタリア語イタリア文化専攻設置
2011年03月	目黒星美学園中学高等学校校舎建替工事完成
2012年08月	星美学園防災非常用倉庫設置
2015年04月	短期大学人間文化学科・専攻科イタリア語イタリア文化専攻廃止
2016年04月	学校法人星美学園と学校法人目黒星美学園合併

#### 4 校種別入学者数，在籍者数の状況

平成30年5月1日現在

校 種	学部等	入学者数	収容定員	在籍者数
星美学園短期大学	幼児保育学科	78	200	148
	専攻科幼児保育専攻	68	100	68
	小 計	146	300	216
星美学園高等学校	全日制 普通科	83	450	250
星美学園中学校		58	450	158
目黒星美学園高等学校	全日制 普通科	注 ー	270	255
目黒星美学園中学校		76	270	242
星美学園小学校		102	720	620
目黒星美学園小学校		112	720	668
星美学園幼稚園		77	240	211
学園合計		654	3,420	2,620

注：目黒星美学園高等学校は，高校からの入学募集をしていない。

#### 5 教職員の状況

平成30年5月1日現在

区 分	学園長	学長・ 校長等	教頭・ 副学長	教 員			小 計	職 員				小 計	合 計
				教諭	非常勤 講師	嘱託		事務局 局長	事務部 長等	事務 員等	嘱託		
法人本部	1						1				1	1	2
短期大学		1	1	9	41		52		1	7	2	10	62
星美学園 高等学校		1	1	23	7		32		1	10	1	12	44
目黒星美学園 高等学校		1	1	17	3		22		1	4	3	8	30
星美学園 中学校		(1)	(1)	18	3		21		(1)	5		5	26
目黒星美学園 中学校		(1)	(1)	19	12		31		(1)	5	4	9	40
星美学園 小学校		1	1	40	4	2	48		1	10		11	59
目黒星美学園 小学校		1	2	39	5		47		(1)	8	1	9	56
星美学園 幼稚園		1	1	12			14			3	2	5	19
合 計	1	6	7	177	75	2	268	1	4	52	14	71	339

6 役員・評議員の状況（平成30年5月1日現在）

(1) 役員

区分	定数	実数
理事	8名以上11名以内	11名
監事	2名又は3名	2名

役職	氏名	勤務形態	選任条項	摘要
理事長	鈴木 裕子	常勤	学園長	本学園学園長
理事	阿部 健一	常勤	学長	星美学園短期大学学長
理事	若松悠紀子	常勤	校長	目黒星美学園中学高等学校校長
理事	脇村ユキエ	常勤	校長	星美学園中学校高等学校校長
理事	内田 泉	常勤	評議員	星美学園幼稚園園長
理事	小島 理恵	常勤	評議員	目黒星美学園小学校校長
理事	吉田登代子	常勤	評議員	星美学園小学校校長
理事	森下ワカヨ	非常勤	学識経験者	外部理事（扶助者聖母会代表役員）
理事	青木 二郎	非常勤	学識経験者	外部理事（弁護士）
理事	福岡 豊	常勤	学識経験者	法人事務局長
理事	頭島美恵子	常勤	学識経験者	目黒星美学園中学高等学校校長教頭補佐
監事	三田村典昭	非常勤	—	外部監事（公認会計士）
監事	最首二三夫	常勤	—	外部監事（元日立オートモティブシステム(株)）

(2) 評議員

区分	定数	実数
常勤評議員	18名以上23名以内	16名
非常勤評議員		7名
計		23名
うち外部評議員		6名

## II 事業の概要

### 1 部門別の諸活動報告（教育事業）

#### (1) 法人本部

##### ア 位置指定道路の廃道

赤羽キャンパスにある社会福祉法人扶助者聖母会星美ホームの建替え手続き時に判明した、公図上、赤羽キャンパス内に存在していた位置指定道路を廃道(30.8.10)とすることができ、土地を有効利用することが可能となった。

##### イ 経理業務の見直し

平成31年度以降の事務組織について、目黒星美学園小学校で経理業務を単独処理させるため、経理規程を改正し、経理業務の権限及び責任を明確にした。

##### ウ 諸規程の見直し

平成31年4月1日に施行される働き方改革関連法に伴い、赤羽キャンパスの慶弔規程及び非常勤就業規程の一部改正を行い、慶弔金等及び特別休暇に関する非常勤職員の処遇改善を行った。

#### (2) 星美学園短期大学

##### ア 共学化の実施

共学化での募集初年度であり、男子入学者は、2名に止まった。さらに広報を進め、共学の周知を図りたい。

##### イ 発達障がい児保育ベーシックプログラム

発達障がい児のインクルーシブ保育に対応できる保育者を養成するためのプログラムである。障がい児関連科目8科目を履修し、修了試験をパスした者に修了証を授与する。平成30年度は、23名に修了証が授与された。

##### ウ テアトロ SEIBI

2年生が上演する、学生の手によるオリジナル子ども劇である（準備は、1年次から始まる。）平成30年度は、「かいぞくだん と たからもの」を上演し、好評を得た。（本学 Web の「星美チャンネル」から動画を見ることができる。）

##### エ 公開講座（地域等貢献）

「イタリア文化」「イタリア語」「教養」「保育・教育」の4分野で開催した。

##### オ 子育て支援

ピーノの部屋として、専攻科生が行う、0～2歳未満の乳幼児と保護者を

対象とする子育て支援活動である。30回開催し、のべ241組の参加があった。97%の満足評価を得ることができた。

#### カ 就職指導

年間計画どおり実施され、就職状況は、以下の通りだった。

本科	人数	%	専攻科	人数	%
幼稚園	1	1	幼稚園	19	29
保育所	1	1	保育所	27	41
特別支援学校	1	2	公務員	5	8
療育センター	1	2	療育センター	6	9
専攻科進学	58	89	特別支援学校	2	3
一般	3	5	特別支援教室	2	3
合計	65		児童養護施設	2	3
			一般	2	3
			進学	1	2
			合計	66	

### (3) 星美学園中学校高等学校

#### ア 授業メソッド

##### (ア) iPad 利用した授業の実施・報告

普通教室棟の I C T 環境の整備により、iPad 1 人一台での授業が可能になった。30年度は、高1・中1での実施を行った。その実施内容を職員会議等で報告し、その成果の確認ができた。

##### (イ) ルーブリックによる評価の実施

高1と中1に対して、ルーブリック（4段階）による評価をアンケート形式で実施。その結果を円形グラフにまとめ、教員間で共有。結果としては2・3段階への回答が多く、来年度への課題が浮かび上がってきた。

#### イ 新指導要領に伴う教育内容の研究

##### (ア) 新カリキュラムの検討

委員会・全体会・夏期研修会において実施した。2019年度内に新カリキュラムを確定するために必要な指導要領の変更点の理解及び指針の決定を目指した。8月には、新カリキュラムの中で”教科横断科目(取り組み)”を設定することが方向付けられた。1月以降の委員会にて教科横断の大枠（独自科目の設定、現行行事や総合学習内での連携、通常授業内での連携など）が検討、決定、共有された。

##### (イ) 新大学入試制度への対応とこれに伴う I C T 関連の教育推進

現高2に対して2018年度9月からの対策を実施するため、学校としての対策方針を決定し、ポートフォリオの蓄積を実施した。思考力・判断力・表現力等に関しては、各教科が具体的な対策を提案、全教員が共有と、実施状況を確認した。

#### ウ 国際プログラム及び新企画推進

##### (ア) マルタ島語学研修及び海外研修旅行

マルタ島語学研修には11名の生徒が参加。とても有意義な2週間を過ごし、英語力のアップにつながった。海外研修旅行を体験した高1は、姉妹校の生徒たちと英語での討論会も行い、自分の意見を、英語を使って表現できる体験ができた。

##### (イ) イングリッシュキャンプ

イングリッシュキャンプでは、3日間英語漬けの生活をし、英語に親しみを感じることができた。

##### (ウ) 職業体験…保護者の事前教育

職業体験では、社会の第一線で働いている父親たちによる事前面談、指導があり、働く意味や職業体験の導入が実施でき、円滑な職業体験をすることができた。

#### エ 広報部の新企画

##### (ア) 夏の理科実験教室

今年度、初めての企画である夏の理科実験では、近くの公立小学校の児童たちが多く参加した。当初、1回の予定だったが、急遽2回目を実施し、学園を知って貰う機会となった。

##### (イ) クリスマスフェスティバル

学園の伝統行事は、メディアでも取り上げられ、今年度のクリスマスフェスティバルは、地域の方々と共に作り上げることができ、当日たくさんの方々が訪れ、盛り上がった。

##### (ウ) 学園教員間の交流

学園広報部を立ち上げ、意見交換等を行った。成果物としては、学園のリーフレットが初めてできた。

##### (エ) 同窓会サポートチームの設立

同窓会の協力を得て、サポートチームが立ち上がった。これらの活動は、生徒募集に少なからず影響を与えた。来年度に向けて更に充実し、生徒数確保へとつなげていきたい。



(4) 目黒星美学園中学高等学校

高大接続プロジェクトをさらに発展させる。

ア VCP 推進委員会 (ボランティア・コミュニケーション・プログラム)

探求活動の方向性・内容・評価の検討

インターンシップ

ボランティア教育

被災地ボランティア研修 ・宮城県 福島県

フィリピンボランティア研修

行事や活動の見直し

イ ICT 推進委員会 情報通信技術

タブレット PC・Classi (プラットホーム) の充実

ClassiNOTE の導入化が検討課題。

デバイスフリーで利用できるアクティブ・ラーニングツール。プリセットされている教材や、手持ちの PDF の教材・写真をアップロードするだけで、生徒の学習状況をリアルタイムに把握でき、生徒同士の解答を共有することで「みんなで学び合う」学習環境を構築できる。生徒個人個人のアクティブ度や学習記録を可視化することで、学習ログ分析をして生徒の学習理解度の把握も可能。

ウ 新カリキュラム対策委員会

教務部・指導部のメンバー、時に、教科のメンバーから選出して、方向性や大枠について決めていく。

大学との教育連携

新大学入試改革

英語教育の充実をさらに検討する

- ・ターム留学
- ・カナダホームステイ
- ・サレジアンカレッジ短期交換留学

(5) 星美学園小学校

ア 教育重点目標の充実 (サレジアン・カラーに生きる教師として)

サレジアン・カラーを掲示し、職員会や朝会で思い出すように話して、意識して生活するよう心がけた。

イ 新学習指導要領実施に向けての授業実践及び研究【ICT機器の活用】

(ア) 教諭が、タブレットの使い方に習熟するようになるため、アップルティ

一チャーター研修を行い、平成30年12月末までにアップルティーチャーに認定されるよう各自で iPad の研修を行い、教員の約2/3がアップルティーチャーの資格を取得した。

- (イ) ロイロノート・スクール体験研修を行い、タブレット機器を使用した効果的な授業実践(グループ活動, ロイロノート, 資料や映像, NHKforSchool, Youtube の利用など)を研究しながら実施した。

#### ウ 英語教育の充実

次の3点を育てるために、日々の英語の学習以外に、以下の内容を実施した。

- ① 英語の基礎学力をつける。
- ② 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4領域をバランスよく育てる。
- ③ コミュニケーション力を育てる。

- (ア) 英語検定の実施(希望者 年2回))

級別合格者数 3級: 5名, 4級: 14名, 5級: 39名

- (イ) 英語劇(4年生)

学習発表会「ピノキオ」20分間の英語劇

- (ウ) スカイプ交流会(5年生)

オーストラリアのセント・リタ・プライマリースクールとスカイプ交流会を行った。

- (エ) 英語スピーチコンテスト(6年生)

小学校英語の総まとめとして、クラスで代表を決め、将来の夢などを英語で話し、スピーチコンテストを行った。

- (オ) オーストラリアホームステイ(31.3.20~31.3.28)

オーストラリアのシドニーにて姉妹校であるセント・ジョン・ボスコ・プライマリースクールで実施した。(36名参加 引率2名)

#### エ 教員研修 テーマ「根気強さを育むために」 年3回

本校の児童は根気が不足していると感じるので、校訓である「たゆまぬ努力」(勤勉)を身につける児童を育てるために、教師がなすべきことを学んだ。教師が根気強く指導にあたることはもちろん、心豊かな人を育てるために、使っても与えても減らない「愛」を惜しみなく与えること、また、常に創立者の思いや理念に立ち戻ることを再認識する機会となった。

#### オ 幼・小・中高の連携

- (ア) 幼小連携

幼稚園の教員と連絡を取り、適宜、児童と園児の関わりの時間を年5回実施した。

2年生と年長組は1年生の時から関わりの機会を持ち、より親しみを持って仲良く関わる事ができた。

(4) 小・中高連携

a 小中連絡会（小学校・内部中学生の情報交換：年2回）

学校説明会とクラブ体験参加の呼びかけを行い、希望者の保護者と児童が参加した。

b 高校3年生と5年生の交流会（年1回）

6年生を対象に6年後の自分の姿（高校3年生）をイメージし、また、高校3年生は6年前の自分の姿を話し、グループで意見を交換しながら、将来のことを考える機会が持てた。また、星美中・高で学んだ卒業生の話を聞くことで、中高の生活の様子が理解できた。

(6) 目黒星美学園小学校

ア こころの教育

(ア) 「道徳」の教科化に伴い、本校の「宗教」の内容を見直し、授業をカトリック信者の教員が担っていくことも見据えて、カリキュラムの改訂を進めた。

(イ) 「チームワークを大事にする教育共同体」を今年度の教職員重点目標として、教職員一人一人が、目黒星美学園小学校を築くメンバーであることの自覚をもち、積極的に生きることに努力してきた。

イ 新指導要領に沿ったカリキュラムの改訂

2020年から実施される新学習指導要領に沿うよう、宗教科のみならず、他教科もカリキュラムの改訂を進めている。特に、本校では「共に学び合う授業」を目指して研究研修を行っているので、この点を強化できるようカリキュラムを工夫してきた。

ウ プログラミング教育の研究

プログラミング教育の必修化に伴い、各教科で、プログラミング的思考力を伸ばすための工夫ができる単元を挙げ、それをカリキュラムに挿入していくよう、教科研究部から提案し実施した。

エ 教員研修

(ア) サレジアンカラーを意識できるよう、毎月、サレジアンカラーの重点項目を1つ選び、月末には学年部でそれについて反省し分かち合う時間をと

った。また、「サレジアンカラー」を实践できることを願って、毎週月曜日の終礼時は、全員で「サレジアンカラー」の文言で祈った。

(イ) 新任教員研修

3年目までの教員は、指導計画を提出し、学期に一回の公開授業を行い、公開日の放課後には協議会を開いて意見交換をして教員の能力向上を図った。

(ウ) 全教員研修

「授業力の向上を志す会」(自主的な会)の立ち上げの声が教員の中から上がった。「働き方改革」も念頭におきながら、教員の自主的な活動を学校として応援していく。

(7) 星美学園幼稚園

ア せいびの森の教育環境向上

自然と触れ合い友だちとのかかわりを深める場である森の環境を、子どもの生活にふさわしい場となるように整えていく。自然の環境を大切にしながら伸び伸びと遊び安全で快適に過ごせる場にする。

イ 預かり保育の充実

年少児の預かり保育を例年5月からとしていたが、保護者の就労に伴うニーズの高まりから4月より実施をした。

保育後の預かり保育においても、幼児の生活にふさわしい遊具・遊びを取り入れるなどの工夫をした。

ウ 保護者との連携の強化

子どもたちの育ちを面談や送迎時、丁寧に伝えた。また、保育内容をクラス便りなどを通じて保護者に分かりやすく伝え、信頼関係を築くよう努めた。

エ 広報の充実

星の子会や見学会の回数を増やした。幼稚園の魅力や教育活動を自信をもって伝えるよう、積極的な関わりをしてきた。

ホームページ・パンフレット・チラシのリニューアルをし、教育内容をよりわかりやすく伝えられるようにした。

オ 幼・小・短大との情報交換及び連携

年中児と小学1年生、年長児と小学2年生でペアを作り、交流会を実施した。幼稚園児が小学生に対し、憧れの気持ちを抱いたり、小学生も園児の面倒を見たりしながら自然な異年齢のかかわりができた。

短期大学の事前実習や、専攻科生の授業などで、連携を深めている。

## カ 教職員の専門性の向上

教職員間で、子どもたちの姿を分かち合い、共通認識をもちチームティーチングを実践した。担任だけではなく、広い視野をもって子どもたちの成長を支えるよう、連携を強化してきた。

園内及び園外の研修、ケースカンファレンス等を利用し、専門性を高めるよう努めた。また、研修の分かち合いをしながら、職員間で情報を共有してきた。

## 2 施設及び設備の主要事業

星美学園は、老朽化したインフラ整備（電気、ガス）を着実に実施し、寒暑時期の教育に影響が出ないように準備を進めている。また、省エネ事業及びITC事業を計画的に実施した。

平成30年度に実施した主要事業は、次のとおり。

### (1) 法人本部

1	メインサーバ更新工事
2	インフラ（受変電設備・電気幹線ほか盛り替え）設計費
3	インフラ（南門・南側塀・構内道路）設計費
4	本館資源ゴミ置き場の防火設備設置（2棟）

### (2) 星美学園短期大学

1	視聴覚室マスター卓更新
2	306 教室椅子更新
3	2階トイレ改修
4	空調機更新（GHP）

### (3) 星美学園中学校高等学校

1	ITCの教育環境の整備
2	教員用 iPad 等の取得

### (4) 目黒星美学園中学高等学校

1	体育館改修工事（メンテナンス通路の改修）
2	教室等LED照明工事
3	ラウラホール照明老朽化更新

(5) 星美学園小学校

1	空調機更新（GHP）
2	無線ネットワークの設置
3	タブレットの取得

(6) 目黒星美学園小学校

1	空調機更新工事（3期目）
2	LED化（お聖堂，応接室及び1階教室等）

(7) 星美学園幼稚園

1	せいびの森屋外トイレ設計費
2	本館3階GHP更新工事
3	園舎照明LED化

### Ⅲ 財務の状況

#### 1 資金収支計算書

(収入の部)

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,674,843,000	1,644,673,600	30,169,400
手数料収入	23,559,800	24,138,040	△ 578,240
寄付金収入	63,300,000	64,012,026	△ 712,026
補助金収入	943,216,000	969,804,451	△ 26,588,451
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	21,906,500	17,718,972	4,187,528
受取利息・配当金収入	6,750,000	11,805,504	△ 5,055,504
雑収入	43,043,000	54,508,899	△ 11,465,899
借入金等収入	362,000	0	362,000
前受金収入	319,840,000	307,200,860	12,639,140
その他の収入	54,427,000	89,733,630	△ 35,306,630
資金収入調整勘定	△ 357,190,000	△ 375,455,498	18,265,498
当年度資金収入合計	2,794,057,300	2,808,140,484	△ 14,083,184
前年度繰越支払資金	936,167,923	1,358,991,082	△ 422,823,159
収入の部合計	3,730,225,223	4,167,131,566	△ 436,906,343

(支出の部)

人件費支出	2,063,100,000	1,861,913,856	201,186,144
教育研究経費支出	375,326,000	353,859,162	21,466,838
管理経費支出	207,968,000	136,815,640	71,152,360
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	500,000	200,000	300,000
施設関係支出	257,000,000	211,366,530	45,633,470
設備関係支出	101,700,000	80,974,186	20,725,814
資産運用支出	401,741,584	201,500,000	200,241,584
その他の支出	26,066,000	44,865,839	△ 18,799,839
予備費	60,000,000		60,000,000
資金支出調整勘定	△ 116,030,440	△ 117,196,155	1,165,715
当年度資金支出合計	3,377,371,144	2,774,299,058	603,072,086
翌年度繰越支払資金	352,854,079	1,392,832,508	△ 1,039,978,429
支出の部合計	3,730,225,223	4,167,131,566	△ 436,906,343

当年度資金収支差額	△ 583,313,844	33,841,426	△ 617,155,270
-----------	---------------	------------	---------------

## 2 事業活動収支計算書

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,674,843,000	1,644,673,600	30,169,400
	手数料	23,559,800	24,138,040	△ 578,240
	寄付金	36,200,000	41,397,620	△ 5,197,620
	経常費等補助金	927,210,000	933,944,451	△ 6,734,451
	付随事業収入	17,240,000	9,655,915	7,584,085
	雑収入	43,043,000	54,528,899	△ 11,485,899
	教育活動収入合計	2,722,095,800	2,708,338,525	13,757,275
	人件費	2,063,100,000	1,863,056,996	200,043,004
	教育研究経費	961,106,000	848,498,586	112,607,414
	管理経費	237,298,000	152,036,667	85,261,333
	徴収不能額等	68,737	68,737	0
	教育活動支出合計	3,261,572,737	2,863,660,986	397,911,751
	教育活動収支差額	△ 539,476,937	△ 155,322,461	△ 384,154,476
	教育活動外収支	受取利息・配当金	6,750,000	11,805,504
その他の教育活動外収入		4,666,500	3,900,000	766,500
教育活動外収入計		11,416,500	15,705,504	△ 4,289,004
借入金等利息		0	0	0
その他の教育活動外支出		0	0	0
教育活動外支出計		0	0	0
教育活動外収支差額		11,416,500	15,705,504	△ 4,289,004
経常収支差額	△ 528,060,437	△ 139,616,957	△ 388,443,480	
特別収支	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	43,106,000	58,659,316	△ 15,553,316
	特別収入計	43,106,000	58,659,316	△ 15,553,316
	資産処分差額	0	14,177,274	△ 14,177,274
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	0	14,177,274	△ 14,177,274
	特別収支差額	43,106,000	44,482,042	△ 1,376,042
予備費	59,931,263		59,931,263	
基本金組入前当年度収支差額	△ 544,885,700	△ 95,134,915	△ 449,750,785	
基本金組入額合計	△ 229,280,000	△ 115,401,367	△ 113,878,633	
当年度収支差額	△ 774,165,700	△ 210,536,282	△ 563,629,418	
前年度繰越収支差額	5,276,231,414	6,340,018,774	△ 1,063,787,360	
基本金取崩額	0	189,873,211	△ 189,873,211	
翌年度繰越収支差額	4,502,065,714	6,319,355,703	△ 1,817,289,989	

## 参考

事業活動収入計	2,776,618,300	2,782,703,345	△ 6,085,045
事業活動支出計	3,321,504,000	2,877,838,260	443,665,740



### 3 貸借対照表

#### 資産の部

(単位：円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	29,273,405,596	29,303,517,695	△ 30,112,099
	有形固定資産	10,145,684,549	10,377,196,648	△ 231,512,099
	特定資産	19,006,916,000	18,805,416,000	201,500,000
	その他の固定資産	120,805,047	120,905,047	△ 100,000
	流動資産	1,449,005,437	1,463,119,577	△ 14,114,140
	合 計	30,722,411,033	30,766,637,272	△ 44,226,239

#### 負債の部、純資産の部

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	208,342,483	129,194,495	79,147,988
	流動負債	506,887,060	535,126,372	△ 28,239,312
	計	715,229,543	664,320,867	50,908,676
純 資 産	基本金	23,687,825,787	23,762,297,631	△ 74,471,844
	繰越収支差額	6,319,355,703	6,340,018,774	△ 20,663,071
	計	30,007,181,490	30,102,316,405	△ 95,134,915
合 計		30,722,411,033	30,766,637,272	△ 44,226,239